

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103723		
法人名	医療法人社団 青冥会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘		
所在地	高松市三谷町4551番地6		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JirgyosyoCd=3770103723-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者、職員が家庭的な関係を保ち、共に笑顔で過ごせるよう心がけている。一人ひとりに即した対応、支援をし、常に意欲を引きだし、できることを増やしていけるように支援をしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>「あいさつ」から始まる地域との交流」を事業所理念に掲げている。日々の関わりの中で「あいさつ」を基本にして、一人ひとりの尊厳を大切に、言葉や声かけに配慮した対応に取り組んでいる。利用者の介護度が重度化し、暮らしにおいて制約が増えているが、協力病院から毎週看護師の訪問があり、相談や助言を受け、体調管理とともに医療連携に繋がっている。また、「重度化や看取りについて」の指針もあり、利用者や家族の要望に添えるように努めている。利用者・家族・関係者との信頼を築き、利用者が安心・安全に暮らせる支援に前向きに取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に理念を掲示しており、日々の生活の中で、理念に基づいた介護の実践を行っている。	運営理念のほかに事業所理念として、「あいさつから始まる地域との交流」を掲げている。日々の実践では「あいさつ」を基本にして、言葉や声かけに配慮した対応に取り組んでいる。	理念がより共有でき、実践に繋がるように、具体的に言語化するなど、職員のサービス向上への意識を行動に繋げる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所にボランティアによる大正琴、獅子舞、演奏会などの訪問を招き、交流に努めている。	大正琴やフラダンス等のボランティアの訪問を受けたり、地域の催しや作業に参加したり、お祭りには獅子舞の訪問もあり、利用者の楽しみになっている。地域交流の拡大に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を定期的に行い、地域の方や民生委員の方にも出席していただき、入居状況を説明し、支援方法について話し合い、助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域委員や市の方々から地域の情報をいただき、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を定期的で開催している。事業所の現状報告や参加者と話し合い、そこで意見や情報提供をサービスに活かしている。	会議を報告や話し合いだけに終わらせず、課題を具体化するために参加者の範囲を広げ、地域や家族との交流や協力が得られる関係づくりを進めていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの会議に参加させてもらい、情報交換をして、ケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くようにしている。	行政の担当者には、現状報告や情報交換をして、相談や助言を得られる関係を築く努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は常に開放している。帰宅願望の強い入居者が重なり、職員の見守りが手薄な時間帯のみ、家族に理解していただき、施錠を行っている。	職員は身体拘束における弊害を理解しており、利用者の安全を考慮しながら玄関も開錠している。身体拘束をしない対策やケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修に参加をして、意欲の向上に努めている。常に職員間で話し合いをして、見守りを十分に行い、見過ごさないように、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方とは、連絡を取り合い入居者の権利が損なわれないよう、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明等を十分に行い、不安や疑問点を尋ねて、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、日々の生活の中で話を聞き、家族には面会時に意見や要望を聞き、それらを反映するよう心がけている。	日頃から家族の面会時に、利用者の近況報告をしたり、意見や要望を聞いて、運営に反映させている。面会のない家族には、電話や担当者がコメントを添えた手紙や広報を送付して、家族が意見を表出しやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について定期的に管理者会議を行い、職員の意見を提案できる機会を設け、反映するよう努めている。	日常業務で職員の役割を決め、関連した個々の意見や、ユニット合同の職員会議での意見や要望も含め、管理者会議で提案できる機会がある。それぞれの立場や役割での意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすく、やりがいがあり、各自が向上心を持って働けるように、仕事に対しての意見を積極的に取り入れたり、個々の状況に応じた勤務を組んだりして、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修の参加を呼びかけ、外部研修の参加は案内を見て、その都度、参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター開催の会議に出席し、同業者との交流や、勉強の機会を持つよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中で、不安や要望等を聞き、安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、困っていることを聞き、不安や要望等に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、まず必要としている支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いにできることは協力し、支え合って良い関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、状況や状態等を報告し、支援策をお互いに話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の協力で、外出や外泊をすることによって、近隣や馴染みの方との関係が保たれている。	家族の協力を得て外出や外泊をすることで、馴染みの場所への買物や外食、また親戚・近隣の人との交流等で、これまでの関係を継続できる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の要望などを聞き入れ、利用者同士がうまくコミュニケーションが取れるよう、環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居された場合は、必要に応じて家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り、信頼関係を築き、困難な方は、表情からくみ取り、利用者の暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	思いや意向を表出できにくい利用者が増えており、家族や関係者からの情報や、職員が日々の関わりの中で把握し、応えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聞いたり、本人から可能な限り話を聞いて、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ一人ひとりが、自分の意志のもとで、一日一日を過ごせるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に、本人を交え、家族等の要望を聞き入れたうえで、介護計画を作成し、必要に応じてその都度、見直しを行っている。	利用者や家族の要望を聞き、職員や関係者が話し合っ、利用者の状況に応じた介護計画を作成している。状態の変化により、見直しや計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を、詳しく介護記録や申し送りノートに記入し、情報を共有し意見交換しながら、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、関係者間で話し合いながら、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により、催事、行事に参加できるよう、常に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携ができており、救急時などは適切な医療が受けられる。	かかりつけ医は、本人や家族の意向を聞いて決めているが、協力病院の希望が多い。医療連携もできており、毎週協力病院から看護師の訪問があり、利用者の体調管理をしている。受診の必要時は、状況により家族や職員が付き添い、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、協力病院から巡回訪問に来ていただき、利用者の体調管理や、相談に対応していただいている。情報や気づき等は、些細なことでも連絡、相談し、受診等も受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、事業所でできる支援について、家族、病院、関係者等に伝え、協力、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等、状態に変化が見られるようになった際は、家族に連絡し、相談しながらできるだけの支援ができるように努めている。	事業所として、「重度化した場合における看取りに関する指針」を説明するとともに、利用者や家族の要望を聞いている。利用者の段階的な変化に伴い、家族や医師・職員・関係者が話し合い、相談しながら、方針の共有と支援に取り組んでいる。また、看取りの経験もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等の対応はできている。対応の仕方は常に職員間でよく話し合い、訓練等の場を設け、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を職員全員が交代しながら、定期的に行っている。また、消防、民生委員、地域の方たちに協力をお願いしている。	定期的に防火訓練を実施して、避難経路や方法について経験を重ねているが、災害対策として、地域の協力体制を築くまでには至っていない。	災害時には、事業所だけの対応には限界や課題がある。運営推進会議等を活かして、地域代表者や参加者と日頃から対処方法の検討をするなど、具体的な協力体制を築くことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接し、個々の人柄等を尊重し、言葉遣い等に常に気を付けるよう、心がけている。	一人ひとりの人格や尊厳を損なわないように、「あいさつ」を基本に、言葉や丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに話しかけ、傾聴し、表現や自己決定ができる雰囲気を作るなどの支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は、事業所の一日の流れによるサービスを行っているが、できるだけ、本人の支援に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感等をあまり気になさらない方には、助言をし、できるだけ本人の希望に沿えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みによる支援はできるだけ行っている。手伝いなどは、入居者の重度化により全員は難しいが、できる方に、見守りのもとでしていただいている。	利用者が好むうどん・寿司・刺身等を定期的に献立に取り入れ、食べやすいように形態も考慮した食事を提供している。食事作りや片付けへの参加は難しい現状で、お膳やテーブル拭き等、できる範囲の役割を、職員と一緒にしたり見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスなどは、栄養士が献立を立てており、個々に応じた食材の大きさや量などを考慮し、水分量は、一日のトータルを把握して、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の一日3回、自立の方には声かけをして促し、困難な方には職員が介助し、行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位不可能な方は、オムツ対応とし、自立の方は、排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。リハビリパンツやオムツ等も使用しながら、トイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、入居者のほとんどの方が、便秘気味のため、水分補給や食事面での工夫をし、また、内服薬等、排便がスムーズになるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の時間は難しいが、できる限り一人ひとりの体調や状況、希望を取り入れながら、個々に応じた入浴を行っている。また、体調不良で入浴できない時は、清拭介助を行っている。	個浴の対応を基本に、体調や状況に合わせてながら週2回の入浴をしている。利用者の介護度が重くなり特浴利用者も増えているが、ゆっくり入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人の希望を聞き入れ、個々の体調や状況により、その時々に応じた臥床時間を取っていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員全員が把握できるようにしている。服薬時は、名前を確認して手渡しをし、服用できているか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな事柄に取り組んでいただき、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出支援は十分にできていないが、月に1~2回の買い物やドライブ、散歩に出かけ、季節を感じてもらったり、気分転換してもらっている。	散歩など、日常的な外出は難しいが、初詣やお花見等の季節行事や、買い物やドライブをして、利用者が楽しめ、普段は行けない場所への外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。買い物等に行く時は、自分で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話しやすい雰囲気作りや、他の入居者に聞こえない場所等の提供を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、餅つき、クリスマスなど、季節感を意識的に取り入れられる工夫をしている。	玄関や廊下・ホールには、利用者の作品が展示され、季節感のある飾り付けが目を楽しませてくれる。食事やテレビ鑑賞をする共用空間は、音や光の不快な刺激もなく、温度や換気にも配慮して、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような場所をもう少し工夫して、増やしていきたいと思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ってきている写真や花を飾ったり、自分が過ごしやすい居室作りに努めている。	居室は使い慣れた小物を持参して飾ったり、備え付けのベッド・椅子・タンス等を、利用者の使いやすいように配置している。また、部屋にはクローゼットもあり、収納が多く整理されている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとってできること、理解できることを把握し、状況に合わせて環境整備に努めている。混乱や行動の失敗があった場合は、職員間で話し合い、本人の不安材料を取り除くよう工夫している。	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「挨拶から始まる地域との交流」を提示して、実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、初詣、獅子舞などの行事に参加、事業所には、「民謡」「朗読」「フラダンス」「歌謡ショー」「大正琴」など、訪問に来てもらい、交流に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所前の道路で道に迷っていた電動車椅子のお年寄りのご家族様に職員が連絡をとり、大変喜んでいただいた。地域の方から、清拭に使って下さいと綿の布をいただいている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の地域委員の方から、地域の情報を得て、三谷町の自治会に参加させていただき、「安曇野市の安心して暮らせる街作り」の研修報告書など、今後の地域の取り組み方についてお聞きした。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの情報交換会や研修に参加し、ケアサービスの向上に活かしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、常時開放しているが、見守りが手薄になる時間帯で、帰宅願望が強い方が重なった場合は、玄関を施錠することがある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、職員会議を開き、虐待や不適切なケアがないか話し合っている。事業所内外の研修にも、積極的に参加している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について分からない点は、後見人に聞き、確認している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、不安や疑問点を尋ねて、理解を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活の中で話を聞き、家族には面会時に意見や要望を聞き、運営に反映させるように、心がけている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の処遇については、常時、職員、管理者がよりよいケアができるように、話し合っている。また、毎月1ユニット、2ユニットの合同の職員会議を開き、意見交換し、反映させるように心がけている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすく、やりがいがあり、各自向上心を持って、働けるように努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や外部研修への参加を呼びかけ、参加を勧めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター開催の研修や、事業所外の研修に積極的に参加し、同業者との交流や、勉強の機会が持てるように努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの話や行動から、不安や要望等を推測して、本人の安心を確保するための関係作りに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等、家族の話を良く聞き、サービスに活かせるよう関係作りに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、まず、必要としている支援の対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、状態等を報告し、支援策を話し合い、個々に合った支援をしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来られた時や、電話をかけるなどして、状態を報告し、支援策をお互いに話し合っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や外泊、他施設に入所している家族との面会、レクリエーションでの外食や買い物などの支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者と席を近付けたり、1ユニットの利用者に来ていただき、一緒に音楽を聞いたり、おやつを食べながら、お話をし楽しんでいただいている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態が悪化し、入院をされたなど、必要に応じ、家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが難しい方には、支援している中で、良い表情で喜ばれている状態の時が、本人の意向ではないかと把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らしに近づけるように努力している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自由に過ごせるように、また、退屈されないように、役割を持ったり、音楽を聞いていただいたり、おやつを食べながら、お話をし、楽しんでいただいている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化する介護について、職員、家族等の関係者と相談、連絡、話し合い、現状に即したものにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、申し送りノートにより、情報を共有したり、毎月、職員会議を開き、気づいたことなどを話し合っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、関係者で良く話し合いながら、支援に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により、催事、行事に参加できるように常に支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続している。協力病院との連携ができており、適切な医療が受けられている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による巡回訪問時に、情報や気づきを伝えて相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合でも、事業所でできる支援については、家族、病院関係者などに伝え、協力、援助している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、本人、家族、医師と話し合い、できるだけの支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考に、常に対応の仕方を職員同士で話し合い、訓練の場を設け、勉強している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を職員全員が担当を決め、交代しながら、すばやく対応できるように実施している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬や個々の人柄を尊重し、言葉遣い等に気をつけるよう職員に声かけをしている。オムツ交換時、入浴時等のプライバシーが守られるように取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに話しかけ、話を聞くことで、本人の思いや、希望を話していただけるような雰囲気作りに努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして、事業所側の決まりで過ごしているが、入浴は時間に余裕を持ち、できるだけ本人の希望に添うように支援し、日中も個々のペースを大事にしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示ができる方は本人に聞きながら、服装を選んでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢の方が多いため、調理の手伝いはされていないが、お膳やテーブル拭きは、お願いすると快くくださる。梅干しやのりのつくだ煮など、冷蔵庫で預かり、希望された時に出している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスなどは、栄養士により考えられており、個々に応じた食材の大きさなどを考慮している。食事摂取量、水分量は1日をトータルとして、記録し把握している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には、声かけし、口腔ケアをされている。困難な方には、職員が1日3回介助にて、口腔ケアを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方以外は自分でトイレに行っているが、歩行が不安定な方や車椅子からの立位が不安定な方については、介助を行っている。オムツを外し、トイレで排泄できるように、自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の把握により、飲み物、食事の工夫や体操の呼びかけをしている。効果がない場合は、医師に相談し、内服薬、浣腸などで排便がスムーズになるように支援している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、特浴の方は朝と昼に分け、できるだけゆっくりと話をしながら、楽しく個々にそった支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間としては取っていないが、各自自由に居室に入り、休まれる。ほとんどの方は、日中はホールで音楽を聞いたり、話をして過ごされるため、夜間はよく眠られている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	絶えず、利用者の体調を観察し、いつもと違った症状があれば、担当医に報告し、相談している。服薬に関しても、お薬情報をよく読み、目的や副作用について理解し、分からない時は、薬剤師に聞いている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、トレー拭き、広告での卓上ゴミ箱作り、新聞の四つ折りなど、利用者の力を活かしながら、役割として実行されている。音楽の好きな利用者が多いので、昭和の歌番組をビデオに撮り、聞いてもらっている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに変わる風景、お花見、菊花展、コスモス見学など、戸外に出向き、肌で感じてもらったり、買い物、ドライブ、散歩、日光浴など、外に出る機会をできるだけ増やすようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所でお預かりして、利用者が希望すれば一緒に買い物に行き、個々が買物ができるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もおり、家族からの電話に気が付かない時や、取り方を間違えて通話できない時は支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、利用者のご家族からいただいた、季節ごとの花などの写真を展示している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの座る場所は、個々がどの場所に座っても構わないように、その都度、対応できるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れたもの(毛布、枕など)や飾り、置物、仏壇などを持ってきていただき、居心地良く過ごされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で移動できる利用者は、迷わず居室に行かれています。トイレには貼り紙をしているので、空いている所を探し、利用されている。浴室は奥にあり、分からない人は誘導している。